

令和元年度

学校法人高水学園
事業報告書

令和2年5月16日 理事会決定

1 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の精神は、「楽学」である。これは論語の第一章「学びてときに之を習う、亦説ばしからずや。朋有り遠方より来る、亦樂しからずや。」からの引用である。

その謂れは、「学んだことを常に繰り返してゆくと、やがて自分のものとなり、自由に働きを表すようになる。」である。絶えざる人格の練成と教育の実践を重視している。

(2) 法人の概要

明治	31 年	4 月	山口県高水村新町に就業年限2ヶ年の高水村塾を創設
	32 年	11 月	私立学校令発布により塾則を制定
大正	9 年	7 月	修業年限5ヶ年に延長し高水中学と改称
	12 年	3 月	財団法人山口県高水中学校に移行
昭和	23 年	4 月	学制改革により山口県高水高等学校に移行、併設中学校は付属中学校と改称
	26 年	3 月	学校法人山口県高水高等学校設立
	27 年	4 月	全日制商業科設置
	29 年	4 月	岩国市に学校移転
	34 年	4 月	校名を高水高等学校・同付属中学校と改称
	35 年	4 月	高水高等学校家政科を設置
	46 年	4 月	法人名を高水学園と改称、岩国短期大学(幼児教育科、英語科)を設立
	51 年	3 月	高水高等学校家政科を廃止
	56 年	11 月	岩国短期大学創立10周年記念式典挙行
	56 年	11 月	学園創立100周年記念式典挙行
平成	10 年	10 月	学園創立100周年記念式典挙行
	13 年	4 月	岩国短期大学にビジネス実務科設置
	14 年	3 月	岩国短期大学英語科を廃止
	18 年	4 月	ビジネス実務科をキャリアデザイン学科に名称変更
	20 年	4 月	高水高等学校付属中学校と高水高等学校の一貫教育の施行(学則に規定化する)
	25 年	3 月	岩国短期大学キャリアデザイン学科廃止

(3) 設置する学校学科の名称・設立月・所在地

令和元年5月1日現在

学 校 名	設立年月	所 在 地
岩国短期大学	昭和46年4月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号
高水高等学校附属中学校	昭和26年3月	山口県岩国市尾津町二丁目24番18号

(4) 設置する学校学科の入学定員と学生生徒数(単位：人)

令和元年5月1日現在

学校名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
岩国短期大学	幼児教育科	80	49	160	115
高水高等学校	普通科	280	198	840	613
高水高等学校附属中学校		70	25	210	69

【教職員の概要 専任(非常勤)】(単位：人)

令和元年5月1日現在

学校名	教員数(非常勤)	職員数(非常勤)	合計(非常勤)
岩国短期大学	12 (26)	7 (9)	19 (35)
高水高等学校	44 (6)	7 (0)	51 (6)
高水高等学校附属中学校	8 (2)	0 (0)	8 (2)

(5) 役員等の概要

(令和元年5月1日現在)

● 理事の就任年月日

定員数 理事9名、監事2名

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	経 歴（役割）	就 任	
				就任年月日 （重任年月日）	届出年月日 （登記年月日）
理 事 長	宮 川 明	常勤	高水学園理事長	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)
理 事	寺 嶋 隆	常勤	岩国短期大学学長(教学)	平成12年12月7日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	前 田 茂 雄	常勤	高水高等学校校長(教学)	平成23年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	森 橋 律 夫	非常勤	岩国駅構内タクシー会長 (寄付担当)	平成22年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	富 沢 佐 一	非常勤	中国新聞社客員編集委員 (広報担当)	平成24年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	松 原 一 誠	非常勤	錦ドリーム開発取締役 (広報担当)	平成17年4月1日 (H28.10.13)	平成24年10月31日
理 事	加 藤 善 美	非常勤	前高水高等学校長 (教学指導担当)	平成25年4月1日 (H28.10.13)	平成25年4月9日
理 事	館 澄 子	非常勤	高水学園同窓会副会長 (教学指導担当)	平成27年4月1日 (H28.10.13)	平成27年4月1日
理 事	宮 川 洋	常勤	高水高等学校事務局長 (財務担当)	平成16年10月13日 (H28.10.13)	平成24年10月31日 (H24.10.22)

● 監事の就任年月日

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	就 任	
			就任年月日 （重任年月日）	届出年月日
監 事	村 元 真 澄	非常勤	平成27年12月10日 (H28. 10. 13)	平成27年12月14日
監 事	稗 本 哲 也	非常勤	平成31年3月1日	平成31年3月1日

(6)評議員の概要

(令和元年5月1日現在)

(定員数20名)

氏 名	主な現職等	就 任	
		就任年月日	重任年月日
宮川 明	理事長	平成31年3月1日	
寺 嶋 隆	理事	平成11年4月1日	平成28年10月13日
前 田 茂 雄	理事	平成23年4月1日	平成28年10月13日
宮 川 洋	理事	平成17年4月1日	平成28年10月13日
森 橋 律 夫	理事	平成11年9月21日	平成28年10月13日
松 原 一 誠	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
富 沢 佐 一	理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
舘 澄 子	理事	平成12年10月13日	平成28年10月13日
加 藤 善 美	理事	平成29年3月2日	
宮 本 剛	高水高等学校附属中学校長	平成27年4月1日	平成28年10月13日
西 村 宏	岩国市教育委員長	平成22年4月1日	平成28年10月13日
渡 辺 耕 而	元高水高等学校附属中学校長	平成20年3月1日	平成28年10月13日
伊 達 明 彦	岩国通運取締役会長	平成1年3月28日	平成28年10月13日
吉 岡 賢 一	高水学園同窓会副会長	平成15年7月16日	平成28年10月13日
長 尾 泰 子	元高水学園嘱託	平成12年10月13日	平成28年10月13日
玉 田 和 子	錦病院理事	平成16年10月13日	平成28年10月13日
岡 本 勝	とみや取締役社長	平成17年4月1日	平成28年10月13日
松 本 泰 行	元高水高等学校教頭	平成28年10月13日	
那 須 理 恵	高水高等学校事務長	平成27年12月10日	平成28年10月13日
中 村 洋 子	岩国短期大学事務長	平成28年10月13日	

(7)校地校舎等の状況

① 校地等

(令和元年5月1日現在)

区 分	(学校名) 岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合 計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所 有	m ² 34,551.00	m ²	m ² 34,551.00	m ² 131,822.00	m ²	m ² 131,822.00	m ² 166,373.00	m ²	m ² 166,373.00
借 用			0.00			0.00			0.00
合計	34,551.00	0.00	34,551.00	131,822.00	0.00	131,822.00	166,373.00	0.00	166,373.00
最終届出年月日	H21 年 12 月 28 日			H10 年 2 月 3 日			年 月 日		

② 校舎等

区 分	岩国短期大学			高水高等学校・中学校			合 計		
	専用	共用	計	専用	共用	計	専用	共用	計
所 有	m ² 8,705.00	m ² 0.00	m ² 8,705.00	m ² 18,482.00	m ² 0.00	m ² 18,482.00	m ² 27,187.00	m ² 0.00	m ² 27,187.00
借 用									
合計	8,705.00	0.00	8,705.00	18,482.00	0.00	18,482.00	27,187.00	0.00	27,187.00
最終届出年月日	H17 年 5 月 31 日			H29 年 7 月 13 日			年 月 日		

Ⅱ. 事業の概要

■【法人全体】

文部科学省の「経営強化集中支援事業」に5年連続で採択された。また、教育振興寄付金の活動を継続し、外部資金を獲得することができた。

■【短期大学】

I. 事業報告

1. 教職員の資質の向上とモラルの高揚

教職員の資質向上のために、FD研修会(年3回)とSD研修会(毎月2回)を実施した。4月の学期始めには非常勤講師を対象に合同研修会を開催し、本学の教学の運営方針を学内で共有した。また、全教職員参加の合同研修会として、建学の精神・教育理念と教育目的、SWOT分析会、財務状況説明会、ハラスメント講習会を実施した。

2. 入学定員確保と就職率達成

◎ 指定校推薦入試の強化

指定校より、成績優秀で入学後もリーダー的活躍が期待される生徒を本学の学生として迎え入れるため、平成29年度入試から設けている指定校推薦入試成績優秀者奨学金について指定校推薦入試受験生のうち高校における評定平均値が4.5以上の場合、入学金を全額免除することに加え、平成30年度入試からは評定平均値4.0以上であれば入学金を半額免除する制度へと拡充した。

令和2年度指定校推薦入試による入学者は、32名であった。そのうち高校の評定平均値が4.5以上の学生は4名、4.0以上4.5未満の学生が4名となっている。指定校推薦入試成績優秀者奨学金の対象となった合格者が8名と、過去最高の人数となった。成績優秀な生徒の入学金全額または半額免除というメリットを活用して、経済的負担を少しでも軽減しようとする思いに応え、入学後もリーダー的に活躍できる学生の獲得に成果が見られる。

◎ 高大連携及び中大連携の拡充を図ることで、受験生への広報活動に繋げる。

高大連携協定校については、平成27年度においては2校と締結しているが、平成28度に更に2校との協定書の取り交わしを実施した。29年度においては協定の趣旨に基づき、出前授業の充実や校内行事への学生のボランティア活動への参加を積極的に推し進めてきた。また、中学校との連携教育の一層の推進を図るため、岩国市内の中学校との連携授業や校長との意見交換などを行い、今後の効果的な中大連携のあり方について意見交換を行ったりして中学校段階から幼児教育・保育の分野をめざす生徒が本学への進学を目標とできる環境づくりを推進した。

高大連携出前授業は、毎年実施回数が増加する傾向が見られ、令和元年度もさらに充実してきた。高大連携推進会議でも協定校(5校)の校長、教員から出前授業の教育効果を力説され、次年度もぜひ続けてほしいとの意見が聞かれるようになった。

中学校との連携では、協定校である高森みどり中学校での出前授業や市内岩国市立川下中学校での出前授業を学校の要請に基づき昨年度に続いて実施し、教育カリキュラムの中で本学の出前授業を効果的に位置づけようとする中学校のニーズに応えることができた。

イベントでの交流は、高森みどり中学校・高等学校の文化祭、岩国商業高等学校の「プラザ岩商」でキッズコーナーの運営に参加したり、本学の清流祭で岩国商業高校のブースを設置したりして積極的に行った。3月には「第9回 Iwatan 親子フェスタ」で協定校5校及び高水高等学校の生徒のボランティア参加を予定していたが、中止となり次回に持ち越された。

◎ オープンキャンパスの内容強化

受験を検討する高校生や社会人が本学の魅力を感じ取れるようオープンキャンパスの内容充実を図るとともに、参加者の受け入れ態勢を充実する。そのため、毎回参加者のアンケート結果の内容やキャンパスメイトとして参加する学生の改善意見を吟味しながら参加者の満足度を向上させる取り組みを継続した。また、参加者の満足度を向上させるため、最後に学長と教員のギター伴奏による全員合唱を取り入れたり、面接アドバイスを教員から直接受けられるブースを追加したりした。この結果、オープンキャンパス参加者の受験率の向上が見られた。

受験行動に直結するオープンキャンパスの充実を図るため、学長が座長となって教員、事務長、担当者が出席するOCP(Open Campus Project)会議を開催して、内容や実施方法、担当者、キャンパスメイトの学生の活動内容、指導方法、指導時間などの検討を行った。特に、入学後の学びと直結する学生による学科発表の充実は、高校生にとっても発表する学生にとっても非常に意義深く、教育成果も上がった。

その結果、令和元年度は第1回目から参加者数が増加し、受験者数も昨年度に比べて10名以上増加させることができた。入学者のうち約9割の学生がオープンキャンパスに参加していることから、特別入試による社会人を除くほとんどの学生がオープンキャンパスに参加している。

◎ 本学独自の奨学金制度の広報

高校生が経済的負担を比較検討して進学先を決定する実情を踏まえ、他大学との競争力を保持強化し、意欲ある優秀な学生を積極的に獲得したり経済的理由による中途退学を防止したりするための各種奨学制度の見直しと改善を図り、教員による高校訪問で各高校の進路担当者に説明を行ったり、業者主催のブース形式による進学相談会等においても高校生に直接説明を行ったり資料提供を行ったりした。

本学独自の奨学金制度についての広報は、学校案内や学生募集要項にいていないに説明をしているが、主に進学説明会や高校訪問などで説明し、経済的理由によって夢をあきらめることがないように高校生に伝えてきた。また、遠方からの資料請求者には資料を発送する際に、遠隔地出身学生生活支援奨学金のシールを貼るなど視覚的にも関心を惹きやすくするようにした。また、オープンキャンパスでは保護者対象の説明や個人相談ブースで一人一人に説明した。令和元年度3月には、2年間本学で学んだ遠隔地出身学生生活支援奨学金の適用を受けていた島根県浜田市、広島県大崎上島出身の学生が地元へと帰還した。

修学支援奨学金の受給者も高い比率で受給しており、国の修学支援新制度が始まって本学独自の奨学金制度の重要性が薄れることはないと思われる。

3. 中期的財政計画の実施

本学は、今年度も入学生の減少に伴い、厳しい財政状況の中、運営規模を縮小してきた。年度当初も中期財政健全化計画を策定したが、短期大学は幼児教育科単科であるため、教育課程に沿った教員の適切な配置と、職員の専門的・技術的業務力があることで、学生への教育がなされている。よって財政計画から人事政策は実践できなかったが、全般的な経費の抑制は図れた。

4. 退学者等を減らす学生指導及び教育相談の充実

目標として、(1)ミスマッチの解消 (2)入学後の保育者への目的意識の涵養と動機づけ (3)学生へのきめ細かい指導とクラス運営の工夫 (4)学生の質の向上に加えて、新たに(5)授業改善を掲げた。具体的にはプレカレッジの内容の充実、新入生合宿研修や入学後早期の行事への参加による目的意識の強化、4つの資質・能力を浸透させるための学習成果個人 Check カードの有効活用、基礎学力底上げのための学習や実習前テストの充実、授業改善の工夫を図るため、アクティブラーニングに関する研修等を行った。さらに欠席状況調査やそれに基づいた学生への個人面談、保護者懇談会、月一度の科会での学生情報交換等を学生相談室、保健室の職員、カウンセラーとクラス顧

問・科会との連携を密にして行った結果、令和元年度の中途退学者は、1年生2名、2年生5名で中途退学率は6.1%と、昨年度の7.9%から減少した。

5. 学生募集と広報活動の充実強化

全教員による高校訪問は年間を通じて4期に分け、本学の取り組み・入試制度・奨学金制度・オープンキャンパスの案内等の説明を行った。1回の訪問校は約100校強であり、訪問の時期により説明内容を変更している。

平成29年4月から岩国～那覇間の空路が通年運行されることとなったことを受け、沖縄県への学生募集に本格的に乗り出すこととし、沖縄県出身学生対象の奨学金制度を整備するとともに岩国市観光振興課や岩国商工会議所との連携のもと、那覇市及び近隣の高校10校を学長、事務長、入試広報センター長3名で訪問し、校長及び進路指導担当者と面会して本学への進学について協力を依頼した。さらには、業者主催の高校内資料頒布会にも参加し、高校生が本学の教員と直接入試対策等を聞くことができる場を設定した。

学生募集強化のため、オープンキャンパスごとに資料請求者やガイダンス着席者、参加記録のある高校生にダイレクトメールによる参加案内を行った。また、高校内ガイダンスには可能な限り出席し、高校生と向き合う機会を重視した。また、高校訪問も可能な限り実施して新たな受験者の開拓に努めた。

また、令和元年度は大学リーグやまぐちが実施している駅などへのインフォメーションスタンドへの資料配架の事業が新たにシンフォニア岩国の資料コーナーとJR岩国駅改札口横でもできることとなり、定期的に資料配架を行った。

6. 就職活動の支援強化

キャリア支援センター等が中心となり、キャリア支援の組織的な取り組みを行っている。

◎ 就職100%に向けての取り組みの強化

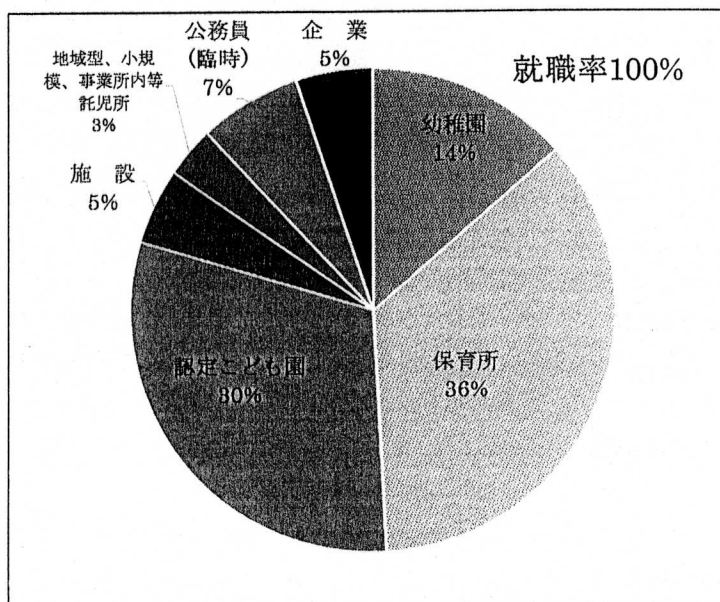
本学独自のキャリア支援

プログラムに基づき、キャリア支援センターが中心となって全教職員で職業教育及び就職支援を行い、本年度も就職率100%であった。

その主な取り組みとして、2年生は、1年次後期に就職希望調査を実施し、2年次5月には全員の個別面談を実施した。就職希望調査及び面談を一人一人行い、学生の希望する就職先へとつながるように就職支援を行った。

1年生は、夏季休業を活用し、例年実施していた就職試験対策講座を見直し、より実践的な保育の現場を体験するインターンシップを始めた。

令和元年度進路状況



1年生	8月	幼稚園、保育所、認定こども園、施設でのインターンシップを自主的に実施。
-----	----	-------------------------------------

2年生	4～7月 5～2月	専門科目 面接指導(キャリア支援センター員を中心に実施)
-----	--------------	---------------------------------

◎ 「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」の充実

キャリア開発Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて施設、保育所、幼稚園各分野で活躍している卒業生を講師として招き、就職活動の取り組みや新任から現在までの体験を通しての講話、保育実技等のワークショップを体験することで、保育実践力の向上に努めた。それぞれの実習前に効果的に実施した。

令和元年度「ようこそ先輩！保育実践力養成講座」

回	月 日	対象	講 師
第 1 回	令和元年 5 月 17 日(金)	2 年生	認定こども園至心(じしん)保育所勤務 角本世梨菜先生(平成 29 年度卒業生)
第 2 回	令和元年 9 月 27 日(金)	2 年生	認定こども園灘幼稚園勤務 笠野菜月先生(平成 27 年度卒)
第 3 回	令和2年1月 10 日(金)	1 年生	広島新生学園勤務 正化 美咲先生(平成 27 年度卒)

◎ フォローアップセミナーの強化

早期離職防止を目的として、卒業後 1 年目に、卒業生を招くフォローアップセミナーを行っている。卒業後早期に、お互いの経験や思いを出し合い、問題点・課題・解決策を考え、ギャップを埋め、自分の未熟さに気づき自己研鑽に努めることが重要であることに気付くことができている。本年度の出席率は 89%と年々上がっており、またアンケートによる満足度も高い。

本年度より卒業 3 年目を対象とした保育実践研修会を開催し、早期離職防止対策を強化した。

7. 地域貢献の推進

地域交流センター、岩国子育て支援ネットワーク(Iwatan 子育て愛ねっとアカデミー)等が中心となつての地域連携の組織的な取り組みを行っている。

◎ 生涯学習公開講座の実施

地域における高等教育機関の知的貢献という目的からオープンカレッジを年間前期と後期に実施している。特に高度情報社会に向けて一般市民のメディアリテラシーの向上を目的としてパソコン講座や保育現場で働く保育者が岩国基地関係のアメリカ人子弟を園児として保育するための英語講座を新設して 2 年目を迎える。さらに音楽は人類永続の不可欠な存在という世界的提言を受けてプロの教える声楽講座を継続して開講する。

◎ 親学講演会の充実

年一度の「親守詩大会」を岩国親学推進協議会の協力を得て開催している。将来、保育者になる学生に対して、子供が親に対しての心情を吐露した句に親が応える親守詩の発表を聞かせて親心を実感する機会を設けた。今年度は 12 月 14 日(土)に実施し、その後に行われた講演会では、岩国児童相談所所長・宮下利恵氏による「児童虐待防止 ～あなたは、わたしは、何ができる？何をしますか？」が行われ、児童虐待と児童相談所の取り組みについて学んだ。

◎ 学生ボランティアの奨励

学生ボランティアの推奨のために、例年 1・2 年生全員にボランティアカードを配布し、意欲向上を図ってきた。また、1 年生には、入学からの 1 年間に 2 回のボランティア活動を義務づけている。その結果、平成 24 年度より、本学創立者宮川漢男先生の「徳性の陶冶」の教育理念を顧み、学生が

2 年間のボランティア活動を通じて地域・社会に貢献することを推奨する目的として、宮川澳男賞、さらに平成 25 年度から、地域貢献奨励賞を制定してきたが、その割合が次の表のように徐々に増加してきている。

宮川澳男賞、地域貢献奨励賞受賞者数と割合の推移

	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
宮川澳男賞(2 名)	16 人	30%	27 人	38%	29 人	43%	26 人	44%
地域貢献奨励賞								

◎岩国子育て支援ネットワーク(Iwatan 子育て愛ねっとアカデミー)の活動

本年度も「Iwatan 親子広場」(年 6 回)、「保育者対象研修会」(年 2 回)実施し、好評を得ている。また、第 9 回「Iwatan 親子フェスタ」は、「みる・かく・つくる・あそぶ&国際交流」のテーマで、愛宕スポーツコンプレックス ロータスカルチャーセンターアリーナを会場として計画・準備してきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止とした。本来、参加・協力するはずの関係機関、団体は次のとおりであった。

主 催	岩国子育て支援ネットワーク(Iwatan 子育て愛ねっとアカデミー) (岩国短期大学、岩国市保育協会、岩国幼稚園協会、独立行政法人国立病院機構岩国医療センター、岩国市保健センター)
共 催	岩国市
後 援	山口県、米海兵隊岩国航空基地、岩国市教育委員会、和木町
協 賛(予定)	学校法人高水学園、岩国短期大学同窓会(さくら会)、岩国総合高等学校、岩国商業高等学校、熊毛北高等学校、高森高等学校、大竹高等学校、岩国医療センター附属岩国看護学校、岩国商工会議所、岩国市母子保健推進協議会、和木町母子保健推進協議会、茶道裏千家淡交会岩国青年部、(一財)岩国市体育協会、(株)錦メンテナンス、横田商店、(有)三木屋、(有)くにきよ園芸、(株)ミコー食品、ネイチャー(有)、バレンタインクレープ、(株)カシワバラ・コーポレーション、(株)チャイルド社、(株)淵田楽器店、(有)山中、(株)アイ・キャン
協 力(予定) 参加団体	IJC(岩国市ジュニア合唱団)、山口県警察岩国警察署、JR 西日本、岩国高等学校(外国語研究部)

Ⅱ. 事業内容

1. 入学式

平成 31 年 4 月 2 日(日) 49 名入学

2. 新入生歓迎行事

平成 31 年 4 月 14 日(金)～4 月 16 日(日)十種ヶ峰青少年自然の家

3. 学位記授与式

令和 2 年 3 月 19 日(月) ※宮川澳男賞(2 名表彰)

4. オープンキャンパス「本学」

3 月 21 日(木祝)、6 月 16 日(日)、7 月 13 日(土)、8 月 10 日(土)、
8 月 11 日(日)中学生対象、9 月 28 日(土)、11 月 17 日(日)清流祭、
12 月 21 日(土)

5. 進学説明会

業者主催によるブース形式の入試相談会に約 60 回参加

6. 高大連携「高大連携高校と出前授業等による連携を推進」

- ◎ 高水高校 11 回
- ◎ 山口県立岩国総合高校 6 回
- ◎ 山口県立岩国商業高校 6 回
- ◎ 山口県立高森高等学校 7 回
- ◎ 山口県立熊毛北高校 4 回
- ◎ 山口県立新南陽高校 3 回
- ◎ 山口県立周防大島高等学校 1 回
- ◎ 山口県立光丘高校 1 回
- ◎ 広島県立大竹高校 6 回
- ◎ 広島県立賀茂高校 1 回

7. 中大連携「出前授業および大学見学および模擬授業体験等」

- ◎ 岩国市立川下中学校 5 回
- ◎ 高森みどり中学校 6 回
- ◎ 大竹市立小方中学校 大学見学、図書館での読み聞かせ

8. 入学試験

AO入試(4 回)、指定校推薦入試(2 回)、推薦入試(3 回)、試験入試(3 回)

社会人入試(6 回)、長期履修生入試(2 回)、特別入試(1 回)

9 入学前教育(プレカレッジ実施)

(全 12 科目)

学長講話・オリエンテーション

学生相談と支援内容

やってみようボランティア活動

折り紙入門

大学における教養

保育者と表現力

保育者のマナー

パワーポイント

ピアレッスン①・②

学生の基本的な生活習慣

プレ保育塾～先輩から学ぶ(在学生)～

保育者に必要な漢字の読み書き

実施期間 12月15日(日)～3月21日(土)

10. 教員研修会「FD」(当該活動3回)、職員研修会「SD」、教職員合同研修会

11. 教育懇談会・保護者懇談会(年度内に1学年3回実施・2学年1回実施)

12. 教育相談の充実

オフィスアワーは時間割に組み込み、前後期とも金曜日の5時限目を設定、非常勤講師については授業時間の前後10分間とし、シラバスに明記。いずれも掲示し、学生へ周知。

13. 事業の運営

教授会(定例・臨時)、科会、部会、各種委員会

14. 地域貢献推進事業

生涯学習公開講座 令和元年度前期3講座、後期3講座

親守詩大会・親学講演会 12月14日(土)に実施

岩国子育て支援ネットワーク(Iwatan 子育て愛ねつとアカデミー)事業

保育者対象研修会(岩国市と共催)

第1回保育者対象研修会 7月27日(土)

第2回保育者対象研修会 1月25日(土)

第9回 Iwatan 親子フェスタ 3月8日(日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

Iwatan 親子広場

第1回 5月11日(土) 第2回 6月16日(日)

第3回 7月13日(土) 第4回 9月28日(土)

第5回 10月19日(土) 第6回 11月9日(土)

15. その他の事業

福田岩国市長(本学客員教授)による特別講義 5月31日(金)

白木岩国芸術振興財団理事長による特別講義 11月8日(金)

就職ナビ in いわたんの開催 6月29日(土)

お店屋さんごっこ 7月12日(金)

幼稚園教諭免許更新講習 8月16日(金)、8月17日(土)

私立大学等経営強化集中支援事業申請に採択される

消防等防災訓練 10月8日(火)

■【高等学校】

I 事業報告

建学の理念である「徳性の陶冶」、教育による人格の錬成を根幹に、社会に貢献できる人物を育成することを使命とし、今年度も人間性・学力・進路の3つの保障の重点目標を掲げた。

具体的には、(1)特別活動や部活動等を通して豊かな心や社会性を育む(2)基礎・基本学力の定着(3)「1つ上の目標」に挑む進路実現、として全教職員が教育活動に取り組んだ。

特に、普通科はワンランク上の基礎学力伸長と人間力向上を図ること、六年制普通科はもう一つ上の進路を実現することを具体的目標とした。

まず、「学校運営の質」を高めるために、自己目標アンケートを利用して校長が全教員と2回の面談と3回の学校関係者評価委員会を開催した。

次に、「授業の質」を高めるために、授業評価アンケートを取り入れた授業改善と全教員によるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の視点での教員研修大会を保健体育の授業で実施した。

「教職員の質」の向上のために、1,2学期に、学習指導、生徒指導、進路指導、特別支援教育についてより研鑽を深めるため、外部講師を招いて4回の教員研修を開催した。

また、生徒の異文化理解と語学力の向上のために姉妹校との定期的な交流会を今年も開催した。

現在少子化が進行しているが、生徒確保のために積極的に情報発信しながら、特にオープンスクールには力を入れた。

今年度の具体的な取り組みについては、次の事業内容に記す。

Ⅱ 事業内容

1. 本校での3つの保障(人間性・基礎学力・進路)に対して以下の取り組みを行った。

(1) 学力の保障

①教員研修 年5回(1学期2回、2学期3回)

学習、教務、進路、生徒指導、特別支援教育関係の外部講師等を招いて実施。

②教科会議 原則、毎週1回、英・数・国・社・理・保健・芸術・家庭科で実施。

③研修大会 11月27日、全教員参加して、テーマ『ICTを活用しての「主体的・対話的で深い学び」』の研究授業と研究協議を行い研鑽を積んだ。

(2) 人間性の保障 特別活動(生徒会活動・学校行事)や部活動を通した取り組みを実施。

①運動会 9月7日 来賓、保護者約500名参観

②楽学祭 9月20日～21日 テーマ「epoch ～青春の花を咲かせよう～」保護者・学校関係者約300名自由参観

③修学旅行

○普通科2年生修学旅行 3月18日～3月21日、東京方面、生徒194名、引率教員8名で実施。

○六年制普通科1年生 10月19日～10月25日、オーストラリアへ生徒34名、引率教員3名で実施。

④挨拶・無遅刻無欠席運動週間 楽学石碑前、南岩国駅前で各学期3回実施

○6月10日～15日 ○11月11日～16日 ○2月10日～15日

⑤普通科2年生インターンシップ 11月13日 普通科2年生230名、企業等77社に依頼

⑥部活動 実績：インターハイ等全国大会出場クラブ

○団体：空手道部男女

○個人：水泳、放送

◇全日本高校模擬国連大会 2チーム出場 11月9日・10日 東京国連大学

(3) 進路の保障

①進路指導 ○外部模試の活用 中3～高3 進研、全統、駿台模試を実施

○模試検討会 3回

②進路研修会 ○高校保護者対象：各学年2回 ○生徒対象：各学年2回実施。

③就職：就職模試(2回)、就職ガイダンス(夏季休業中)を実施

*今年度の進路(卒業生182名)について

進学者120名(4年制大学61名、短期大学5名、専門学校54名)、

就職者 55名(公務員8名、民間47名)、浪人生4名、家居(未定者)3名

2. 学校関係者評価委員会：外部からの視点で指導・助言を得た。

○学校関係者評価委員：PTA：森脇美奈子、企業：寺内浩之、中村義行、教育界：岡崎天隆、地域：八木敦浩の5名。

○年3回(各学期開催)6月5日、11月12日、3月7日

*3月に自己評価書を理事会に提出し、次年度の改善策を検討した。

3. グローバル化・異文化理解に向けて

○オーストラリア、サザンクロス.C.C 高校との短期交換研修プログラムを実施

9月23日～29日 サザンクロス.C.C 高校から、高校生10名、教員3名来校

4. 広報活動について 以下の入試に向けて、広報活動を展開した。

◇ 高等学校 六年制普通科:一般入試1月12日

普通科:特別・推薦入試1月11日、一般入試1月29日

(1) 中学校への進路説明会

時期 6月6日～7月7日

対象 岩国市内の中学校14校、大島中、安下庄中

(2) 中学校訪問 4地区への訪問(市内、玖西、柳井以西、広島西地区)各2名ずつ派遣

第1回 5月20日 今年度入試の報告、卒業生・在校生の状況を説明

第2回 12月2・5日 次年度入試について、3年生の進路状況を説明

(3) 塾対象説明会

9月13日 岩国市内、柳井、広島市地区から18名参加

(4) 中学校教員対象進路説明会

9月25日 岩国市内、柳井・大島地区、西広島地区から22校参加

(5) オープンスクールの開催(8月・11月)

第1回 8月4日:参加者80名(生徒64名、保護者等16名)

5日:参加者520名(生徒400名、保護者等120名)

内容 ①入試対策講義 ②クラブ見学・クラブ体験③校内見学

第2回 11月3日:参加者140名(生徒94名、保護者等46名)

内容 ①入試対策講義 ②校内見学 ③クラブ体験

(6) 文化部の発表会

○長唄三味線発表会(8月25日、シンフォニア岩国)生徒、保護者、一般

■【付属中学校】

I 事業報告

グローバル化やAI化によって今後職業の淘汰が大幅に進み、職業観そのものを見直さねばならないという現在の時代背景を意識した教育を志向した。

また、日本の特殊な事情として少子高齢化による地域社会の課題をしっかり受け止め、新しい生きがいの創造や生活自体の見直しにまで問題意識を広げ、教育活動の転換を図った。

知識や技能の習得を中心に据えた学校教育から、習得した基礎的な知識・技能をもとに自ら課題を発見し、その解決に主体的・協同的に取り組み、学びの成果を表現し、さらに実践に活かせる力、つまり「21世紀型学力」を身につけさせる教育を心掛けた。

今年度の具体的な取り組みについては、次の事業内容に記す。

II 事業内容

(1) 学力保障

① 教職員の資質向上

・ICT 機器及びタブレットを活用したアクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた授業研究を継続実施した。特に中1生には個人用タブレットを待たせ、学校では授業ツールとして家庭では反転学習に活用した。

・校内教職員研修については、高校と協力して行った。

・校外研修会へは道德教育の担当者を任命し、先進校の研究授業等に積極的に参加した。

・AL型授業の評価としてポートフォリオ評価を導入するための研修については、不十分であった。

②シラバス(学習内容、指導法、評価等)の改善として、ルーブリック評価の導入については、各教科担当者単位で研究を進めた。

③外部模試による客観的な学力把握

・新しい学習指導要領や大学入試改革に即応するために、年度途中で受験体制を大きく見直し、以下の模擬試験を受験した。受験後に来年度以降続けるかどうか、総括した。

	4月	8月	10月	12月	1月	受験該当学年
学力推移調査(知識・技能)	○	○			○	全学年共通受験
中学総合学力調査(思考力・表現力・判断力)			○			1, 2年生受験
GTEC(英語の4技能)				○		3年生受験
GPS-Academic(探究的な学習の成果)				○		3年生受験
Z会アドバンスト(高いレベルの知識・技能)						廃止

(2)人格保障

①学校行事への取り組み(生徒会活動の活性化)

・運動会(9月7日)、中学発表会(9月20日)、中六合同発表会(2月15日)を年度の総括行事と位置付けて生徒主導で運営できた。

・その他クラスマッチ(7月8日、12月6日)、英語暗唱大会(9月11日)、30キロ遠足(10月25日)、百人一首カルタ大会(1月18日)等、伝統に裏打ちされた学校行事を実施し、コミュニケーション能力やマネジメント能力の向上につなげることができた。

②学年行事を楽しむ

以下の学年行事を予定通り遂行し、当初の目標を達成できた。

- ・1年:高水訪問・スプリングセミナー(4月16・17日)
- ・2年:郷土学習(史跡めぐり)(5月23日)、サマーセミナー(8月2～4日)
- ・3年:平和学習(5月23日)、オータムセミナー(11月6日)

③ユネスコスクール高水の推進

以下の活動を計画通り進め、今年度も作文コンクール等で優秀者を輩出し、生徒の自己肯定感を醸成することができた。

- ・地域貢献としてのボランティア学習
- ・岩国ユネスコ協会との連携
- ・国際理解と国際協力のための作文コンクール等への参加
- ・海外姉妹校との交流プログラム(ホームステイ)

④部活動の活性化

・短時間でメリハリをつけ、効果的に技術を向上させる指導によって、水泳部等運動クラブで入賞者を輩出することができた。

(3)進路保障

①進路ガイダンス(進路サポート)による指導については、社会のAI化やグローバル化に対応できる進路指導への転換を図るために、教材の見直しを行った。

②楽学テストは下記の目的で予定通り、夏秋冬年3回(6月21日、8月26日、1月9日)全学年対象に実施した。年度末に実施方法や内容について総括し、来年度以降の実施方法について変更することを決めた。

・大学受験に必要な基礎知識・技能の全員習得を目指す

③総合学習の時間を探究学習に切り替え、異学年による班編成をおこない、班ごとにテーマを決めて活動(17時間)した。論理的思考力や知的好奇心を醸成、また協働的な学習による一定の

成果を得た。

(4)地域貢献

- ①ESD パスポート(ボランティア活動)の活用は運用の面で進みにくかった。
- ②生徒会による挨拶運動の推進⇒活発に取り組んだ。
- ③愛宕地区社会福祉協議会との連携による地域清掃の実施(11月2日)⇒全校生徒の約半数が参加して、地域の人たちと一緒に活動ができ、有効な交流の機会となった。

(5)入学定員確保

以下の入試に向けて、広報活動を展開した。

専願入試A・B出願 入試日 12月8日(日)

専願入試C出願、一般入試 出願受付 12月26日(木)～1月7日(火) 入試日 1月12日(日)

- ①小学生と保護者対象「楽学フェスタ(オープンスクール)」を年3回開催
小学校低学年対象の「ものづくり体験」は取りやめ、5・6年生を念頭に模擬授業に力を入れた。
・プログラム i 在校生による学校紹介 ii 模擬授業体験 iii 育ガイダンス
・第1回6月8日、参加者数計91名)、第2回(7月13日、参加者数計84名)、第3回(8月26日参加者数計55名)
- ②小学校訪問
・山口県下松地区～広島県廿日市地区内の小学校約93校を校長が年2回訪問し、情報交換
・5月中旬 「楽学フェスタ」の紹介と出身生徒の現状報告
・8月下旬 入試説明会の紹介と次年度入試の変更点を説明
- ③入試説明会の開催
・第1回(9月28日参加者91名うち6年生32名)、
・第2回(10月27日参加者46名うち6年生22名)
- ④ジュニア英会話スクールの開催(7月22日～26日参加者11名)

Ⅲ. 主な施設・設備整備事業の概要

【法人】

○学園全体で、外灯の補修と修繕及び新設事業を行った。

【短期大学】

- 施設整備の補修や修繕計画を立案し、実施に向けて計画書を作成する。
- 岩国短期大学 水道官破損のため、緊急復旧工事を実施した。
- 岩国短期大学 ICT 演習室の整備および情報処理室の教育装置を入れ替え、教育環境の充実を図った。

【高等学校・付属中学校】

- 第1職員室の教員全員にタブレットを配付し、ペーパーレス化と業務の効率化に向けた取り組みを開始した。
- 施設整備の補修や修繕計画を立案し、実施に向けて計画書を作成した。

Ⅳ. 財務の概要

IV. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

有形固定資産は、高校 校地59㎡を売却。（藤本循環器内科移転に伴うもの）

特定資産は、土地等購入引当特定資産を取崩した為、2,700万円減少。

② 収支計算書の状況

私立大学等経営強化集中支援事業に、継続して採択され、補助金の増収が図れた。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
固定資産	4,550,029	4,429,184	4,344,023	4,248,559	4,130,271
流動資産	306,910	465,384	462,418	449,508	545,776
資産の部合計	4,856,939	4,894,568	4,806,441	4,698,067	4,676,047
固定負債	187,614	181,918	181,598	181,081	174,124
流動負債	88,298	117,263	133,513	86,796	168,241
負債の部合計	275,912	299,181	315,111	267,877	342,365
基本金	4,637,294	4,607,252	4,644,541	4,635,437	4,628,942
繰越収支差額	△ 56,267	△ 11,866	△ 153,211	△ 205,247	△ 295,259
純資産の部合計	4,581,027	4,595,387	4,491,330	4,430,190	4,333,683
負債及び純資産の部合計	4,856,939	4,894,568	4,806,441	4,698,067	4,676,048

② 収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
学生生徒等納付金収入	455,719	453,900	422,733	427,488	380,606
手数料収入	25,649	25,178	23,444	21,089	21,532
寄付金収入	12,093	29,393	25,354	17,653	14,668
補助金収入	323,470	387,890	322,811	319,412	279,706
資産売却収入	0	0	0	0	300
付随事業・収益事業収入	12,539	23,639	28,356	23,050	19,597
受取利息・配当金収入	5,313	4,346	3,280	2,306	2,614
雑収入	28,017	62,063	71,181	37,336	110,057
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	47,885	43,750	49,635	42,223	45,895
その他の収入	181,717	118,319	101,851	109,284	116,540
資金収入調整勘定	△ 81,309	△ 116,890	△ 137,017	△ 87,957	△ 166,467
前年度繰越支払資金	159,607	272,016	394,147	367,662	410,442
収入の部合計	1,170,700	1,303,604	1,305,775	1,279,546	1,235,490

支出の部	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
人件費支出	653,359	690,547	699,397	636,051	715,584
教育研究経費支出	115,179	118,353	166,986	132,484	106,695
管理経費支出	27,653	26,193	28,477	46,656	28,700
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	5,013	70,972	49,838	9,558	1,752
設備関係支出	4,844	8,531	1,999	5,294	5,667
資産運用支出	415	28,501	1,940	500	33,333
その他の支出	124,987	32,766	65,662	76,188	41,638
資金支出調整勘定	△ 32,766	△ 66,406	△ 76,186	△ 37,627	△ 114,807
翌年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662	410,442	416,928
支出の部合計	1,170,700	1,303,604	1,305,775	1,279,546	1,235,490

イ) 活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	857,186	922,489	858,430	841,036	823,506
教育活動資金支出計	796,191	835,093	894,860	815,191	850,978
差引	60,995	87,396	△ 36,430	25,845	△ 27,472
調整勘定等	△ 3,539	△ 8,325	△ 8,597	8,975	△ 4,325
教育活動資金収支差額	57,456	79,071	△ 45,027	34,820	△ 31,797
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	60,300	111,573	65,450	19,991	29,960
施設整備等活動資金支出計	9,857	79,503	51,837	14,851	7,419
差引	50,443	32,070	13,613	5,139	22,540
調整勘定等	△ 2,975	744	744	744	△ 4,603
施設整備等活動資金収支差額	47,468	32,814	14,357	5,883	17,937
小計（教育活動資金収支差額・施設整備等活動資金収支差額）	104,924	111,885	△ 30,670	40,703	△ 13,860
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	8,307	38,746	6,125	3,322	53,832
その他の活動資金支出計	822	28,500	1,940	1,246	33,484
差引	7,485	10,246	4,185	2,076	20,347
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	7,485	10,246	4,185	2,076	20,347
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	112,409	122,131	△ 26,485	42,779	6,487
前年度繰越支払資金	159,607	272,016	394,147	367,662	410,441
翌年度繰越支払資金	272,016	394,147	367,662	410,441	416,928

ウ) 事業活動収支計算書

(単位: 千円)

科目		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	455,719	453,900	422,733	427,488	380,606
	手数料	25,649	25,178	23,444	21,088	21,532
	寄付金	11,843	26,523	23,344	16,021	12,710
	経常費等補助金	323,470	331,187	289,531	316,208	279,206
	付随事業収入	12,539	23,638	28,356	23,050	19,597
	雑収入	28,102	62,063	71,181	38,310	110,057
	教育活動収入計	857,322	922,489	858,589	842,165	823,708
	事業活動支出の部					
	人件費	650,865	684,851	699,076	636,472	708,626
	教育研究経費	207,891	211,287	261,143	211,411	183,989
	管理経費	31,242	29,748	31,970	50,127	32,170
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	889,998	925,886	992,189	898,010	924,785
	教育活動収支差額	△ 32,676	△ 3,397	△ 133,600	△ 55,845	△ 101,077
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	5,313	4,346	3,280	2,306	2,614
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	5,313	4,346	3,280	2,306	2,614
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	5,313	4,346	3,280	2,306	2,614
	経常収支差額	△ 27,363	949	△ 130,320	△ 53,539	△ 98,462
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	172
	その他の特別収入	1,120	59,573	35,561	5,525	2,825
	特別収入計	1,120	59,573	35,561	5,525	2,997
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	7,762	46,162	9,298	13,126	1,041
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	7,762	46,162	9,298	13,126	1,041
	特別収支差額	△ 6,642	13,411	26,263	△ 7,601	1,956
	基本金組入前当年度収支差額	△ 34,004	14,360	△ 104,056	△ 61,141	△ 96,507
基本金組入額合計		0	△ 5,371	△ 37,312	△ 8,204	△ 1,162
当年度収支差額		△ 34,004	8,989	△ 141,368	△ 69,345	△ 97,669
前年度繰越収支差額		△ 41,267	△ 56,267	△ 11,865	△ 153,210	△ 205,247
基本金取崩額		19,004	35,413	23	17,308	7,657
翌年度繰越収支差額		△ 56,267	△ 11,865	△ 153,210	△ 205,247	△ 295,259

(参考)

事業活動収入計	863,755	986,409	897,430	849,996	829,321
事業活動支出計	897,760	972,048	1,001,487	911,137	925,827

(4) その他

① 有価証券の状況

なし

② 借入金の状況

なし

③ 学校債の状況

なし

④ 寄付金の状況

教育振興寄付金募集により、一般寄付金として2,388,158円を獲得、受配者指定寄付金として1,840,000円獲得した。

⑤ 補助金の状況

外部資金の獲得の必要性から計画通り、岩国市より公開講座の補助金を220,000円を獲得。

⑥ 収益事業の状況

なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

あり（100万円未満の賃料のため、取引の重要性を判断する際の取引基準に該当しない。）

イ) 出資会社

なし

⑧ 学校法人間取引

なし